

失語症患者も漢字だけは覚えている

さらに博士は、

「第二は、日本の失語症患者、頭をタマで撃ち抜かれたりした失語症患者の中に、カナをわすれて、漢字だけを覚えているのが多い。そういう意味からいうと、漢字の中にも二つあって、ひじょうに抽象的なもの、たとえば『概念』とか、『範疇』とか、そういう文字はどうかかわらないが、具体的な事物と結びついたもののばあいには、漢字は、人間の思考の初期には、記憶の助けになるんじゃないかということです」

第三には、「国際絵画言語(アイソタイプ)」という絵文字について話されたのですが、これは、オットー・ノイライトという人が、漢字の作り方を研究し、それを応用して作った、というお話でした。

わたしが、波多野将士の発言で、とくに注意していただきたいと思うことは、第一と第二です。

ことに第二は、「漢字は、人間の思考の初期には、記憶の助けになるんじゃないか」と、考えられていることです。漢字が記憶のささえに

なっているからこそ、失語症患者が、漢字だけは覚えているという事実があるのでしょう。

石井方式の第一原則は、このように、心理学的、科学的な裏づけが、しだいに多く発見されてきつつあるのです。